

事務事業評価シート

評価対象年度 平成 23 年度

【事務事業の基本的事項】

事務事業名	グリーンツーリズム推進事業			
担当課係名	農山村体験デザイン室 課	-	係	作成者 田口聡美
総合計画での位置づけ	施策の大綱	歴史と自然が織り成す交流拠点のまち		総合計画のページ 39
	基本計画	グリーンツーリズムやエコツーリズムの推進		
	主要施策	グリーンツーリズム及びエコツーリズムの推進		
予算費目	一般 会計	6 款 農林水産業	1 項 農業費	3 目 農業振興費
事業期間	平成 18 年度 ~ 平成 27 年度		新規/継続の区分	継続
性質区分	<input checked="" type="checkbox"/> 市民サービス <input type="checkbox"/> 公共事業 <input type="checkbox"/> 施設維持管理 <input type="checkbox"/> 補助金 <input type="checkbox"/> 内部管理			
根拠法令等	なし			
事務区分	<input checked="" type="checkbox"/> 自治事務 <input type="checkbox"/> 法定受託事務			
運営方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直営 <input type="checkbox"/> 直営(一部民間委託) <input type="checkbox"/> 民間委託(全部) <input type="checkbox"/> 補助			

【事務事業の実施内容】

事業の対象 (誰のため・何を)	仙北市としての魅力向上と地域の活性化対策のために
事業の目的・意図 (どういう状態にしたいのか)	受入農家(開業農家)とグリーンツーリズム利用者数の拡大、体験別インストラクターの育成を目的として
事業の内容 (どのような業務、活動を行うのか)	農家民宿、体験受入体制の強化や情報発信を行う

【事務事業の推移】

		項 目	単位	23年度実績			
効果	活動指標	デザイン室ブログ投稿回数	目標	回	180		
			実績	回	204		
			達成度	%	113.3%		
	成果指標	農家民宿利用者数	目標	人	6,307		
			実績	人	8,640		
			達成度	%	137.0%		
投下コスト	項 目		総事業費	23年度決算額(千円)			
	事業費(人件費を除く)(A)			1,135			
	人 件 費 (B)		—	11,023			
	職 員 数		—	1.30			
	職 員 平 均 人 件 費		—	8,479			
	(A) + (B) 投下コスト		—	12,158			
	財源内訳	国 庫 支 出 金			0		
		県 支 出 金			0		
		地 方 債			0		
		そ の 他			0		
		一 般 財 源			12,158		
単位コスト	活動指標1単位当たりコスト(円)		—	59,598			
	市民1人当たりのコスト(円)		—	409			

【事務事業の今までの成果】

ツイッターやブログなどSNSを活用した事業を行うことで、宿を利用してくれた方や自らが情報発信を行うことが可能になりロコミカによるPR効果が効いている。ツイッター等を活用することは、各宿泊施設毎インターネットやスマートフォンなどの利用環境について考えるきっかけになり、実際にWIFI利用可能になった農家民宿（ペンション）も出てきている。また各農家同士が情報を共有する事も容易になり、その結果、受入体制の強化にも繋がっている。

【事務事業を取巻く環境】

国・県・他自治体の動向	秋田県庁でも平成23年度までは農山村振興課にグリーンツーリズム担当部署を設置していたが平成24年から観光戦略課に設置された。この事からも観光的要素と位置づけられ今後は積極的に情報発信が行われるものと思われる。
事業に対する市民の意見 (事業に対する期待、要望、苦情等)	ツイッターによるリアルタイムな情報発信とブログによるまとめた発信の組み合わせで今までよりも担当部署（デザイン室）の動きが見えてくるようになった。また様々な体験メニューのコーディネートのおかげで、多様な楽しみ方の提供が可能になった。

【一次評価】

判定	事業の方向性	判定に至った理由
B 1	A 現状のまま継続（実施）	平成23年度からグリーンツーリズムの担当部署としてデザイン室が新設された事により、情報発信、受入体制の整備が積極的に行われた。特にデザイン室で公式IDを取得しツイッター等で情報発信を行った効果は大きい。今後は農家のライフスタイルや農山村の多様な魅力について掘り下げていく必要がある。一方で、農家民宿利用者の増加を見込んだ受入体制の整備も今まで以上に進めていく必要がある。
	B 1 見直しの上で継続（拡大）	
	B 2 見直しの上で継続（手段改善等）	
	B 3 見直しの上で継続（縮小）	
	C 1 大幅な見直しの上で継続（拡大）	
	C 2 大幅な見直しの上で継続（手段改善等）	
	C 3 大幅な見直しの上で継続（縮小）	
	D 休止・廃止（統合を含む）を検討する事業	
	E 終了（完成及び目的を達成し終了した事業）	

※一次評価の判定がB～Dのときは、下記に必ず記入すること。

【具体的な今後の取組内容（改善の方向性、対象、意図、手段等について記載すること。）
農家のライフスタイル等の情報発信については平成24年度も新規事業を計画し取り組む予定でいる。受入体制の整備については現在体験受入を行っている方々とも情報交換や、実施方法について検討する場を積極的に持ちながらインストラクターの育成について取り組んでいく。

【二次評価】

判定	判定に至った理由
B 1	平成23年度からグリーンツーリズムの担当部署が新設され、市の多様な魅力発信を行い、農家民宿利用者が増加しています。今後は各民宿の協力体制を構築し、受け入れ体制の整備を推進していく必要があると考えます。

